

本日の
プログラム

就任挨拶(2) 副会長(クラブ奉仕)・副会長(職業奉仕) SAA・社会奉仕

就任挨拶

高橋 徹 会長

本年度、札幌東ロータリークラブ第63代会長を務めさせていただきます、高橋徹です。

歴史と伝統のある当クラブの会長をお引き受けし、身の締まる思いであります。

特に、国の政策で、今年度は新型コロナウイルス感染の中での、オリンピック開催が決定されており、感染拡大を封じ込めながらの準備となります。通年の年とは全然違う環境の中での活動となります。新型コロナウイルスの感染等や、オリンピックの日本開催準備との関連で、各団体や近隣の友人や、私達のロータリークラブ等の、活動や行動には十分に注意・配慮する必要に迫られることになりそうです。

又、今年は、当クラブとして犬嶋年度からの申し送りの3000回例会も準備してありますが、流動的です。

ロータリークラブは、親睦活動がベースとして、会員相互の親睦から人を知り、友人として深いお付き合いが始まり、強い絆で結ばれた真の友人として一緒に活動していく団体と仲間としてロータリー活動が成り立っていきます。そのことから見ますと、ロータリー活動にマイナスにならない様に、私達の仲間、こんな時こそ一度ロータリー活動の倫理指針である4つのテストを復唱して進みたいと思います。

また、新型コロナウイルスの感染拡大を少しでも封じ込めるために、私達ができる「三密」の回避を普段からの行動の中に取り込み、加えてワクチン接種を100%しておくことを個人が進めて頂きたいと思います。

会員の皆さん、今年1年、よろしくお祈りします。



高山和宏 幹事

いよいよ新しい年度、高橋年度がスタートしました。

前年度の犬嶋会長、岡澤幹事、本当におつかれさまでした。

今年度の会長方針は、「先輩会員の想いをつなぎ、はばたこう!」です。

この会長方針のもと、幹事として1年間とにかく元気に明るく、しっかりとクラブ運営をしていきたいと思っておりますので、会員の皆様、よろしくお祈りいたします。

今、世の中は、新型コロナウイルスの出現により一変し、私たちはその変化に戸惑いながら、日々の暮らしや仕事において、その対応に追われています。

ロータリー活動も例外ではなく、人と会うこと、集まること制限されるなか、例会や奉仕活動の中止を余儀なくされるなど、これまで当たり前できていたことができなくなるといふ日々が続いています。そのような厳しい環境のなか、新年度をスタートするにあたり、希望の光が見えました。それは、ワクチンではありません。前会員増強委員長の大岡さんの強いリーダーシップにより、多くの新入会員を我がクラブにお迎えできたことです。

会長方針を実行するために、歴史と伝統をつなぎ新しい仲間と一緒に、先輩会員の想いをつなぎ、未来を見据えながら、いま何ができるか、そして何をすべきか考え、コロナを言い訳にせず、世の中の変化に対応したクラブに進化させる1年としたいと思います。

最後になりますが、クラブ運営にあたり、心配なことがあります。それは、昨年度の新入会員を含め、会員歴の浅い会員の方々が、本来の例会やFSM、奉仕活動をあまり経験できていないことから、ロータリーの楽しさ、素晴らしさを実感できていないのではないかと心配です。ご縁でつながった仲間と、親睦を深め、生涯にわたる友情をはぐくめるよう、その機会をつくり、実践したいと思います。

幹事の仕事を大事なおことは、目配り、気配り、心配りと心得ています。1年間よろしくお祈りいたします。



■本日のロータリーソング
我等の生業

2021~2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ